

おいしいおかしいおじいばあ

わかったさんのクッキー

原作：寺村輝夫「わかったさんのクッキー」
 絵：永井邦子 あかね書房刊

台本・演出：岡田利規
 美術：金氏徹平 / 劇中歌作曲：前野健太

2016年8月27日(土) 15:00開演
 28日(日) 11:00/15:00開演
 29日(月) 14:00開演
 ※開演は開演の30分前

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
 アートスペース



TOYOHASHI ARTS THEATRE
 PLAT

公益財団法人
 豊橋文化振興財団情報誌
 2016年7月-8月

vol. **20**

表紙／口字ッ「荒川、神キラーチューン」 撮影：大滝央子
 企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団
 編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限公司STAFF
 取材／大野拓夫、露久保瑞恵、宮本真理子
 平成28年6月発行 20号[隔月発行]



「わかったさんのクッキー」2015年神奈川公演より 舞台写真 撮影：前澤秀登

NEWS

TOYOHASHI ARTS THEATRE PLAT

豊橋文化振興財団情報誌
 2016年7月-8月
 vol. 20

CONTENTS

表紙 口字ッ「荒川、神キラーチューン」
 2・11

INTERVIEW:1 口字ッ「荒川、神キラーチューン」
 脚本・演出 山田佳奈の気付き 4

TALK「わかったさんのクッキー」
 岡田利規 × 椎橋綾那 6

INTERVIEW:2 葛河思潮社「浮標」
 演出 長塚圭史が語る。 8

INTERVIEW:3「シェイクスピア講座」
 翻訳家 松岡和子に聞く。 10

TOPICS 松竹大歌舞伎
 中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露 12

INFORMATION PLAT主催公演情報 14

ESSAY 平田満のちよこつとエッセイ
 「ほのほの」
 PLAT CALENDAR
 SUPPORT
 TICKET CENTER

INTERVIEW: 1

本当にその通りで、私には私にしか使えない性格の筋肉があり、彼女たちには彼女たちにしか使えない性格の筋肉があると気づいたんです。私はこれでいいんだ、と。そう考えられるようになってからは、感情過多な女性の喜怒哀楽や、鬱陶しい部分が面白くて仕方ありません。女性って柔らかくて素敵な生き物だな、と。こんな私だから、男性とは違った目線で女性を描けるんだと思います。男性が手がけた脚本は、ヒロイン性を抽出したものが多くですが、私は「ヒロインって嘘だろ?」と思っちゃうんですよ。それは男性が作り上げた理想像であり、女性はずもとも面倒くさくて計算高い生き物。聞き分けが良さそうに見える女性だって、影では「なんで電話してくれないのよ!!」とキレたりするものなんですから。

—人間の内面から溢れ出てくるものを赤裸々に描くということでしょうか?

山田 —コンプレックスと感じていることや、葛藤している部分、許せない部分など、人間の多面性を綺麗ごとにしなくて描くからこと美しいと思うんです。綺麗ごとにしてしまったら、生きるという意味を見失っちゃう気がします。演劇だから、フィクションだからといって、描くときに



か口なのか…そんな面倒くさいことがちゃんと伝わっているなんて。信念が届いているみたいで、嬉しくなります。丸6年経って浸透してきたことを、我ながらすごいなあと思います。

—昨年30代に突入したとうかがいましたが、20代から心境の変化はありましたか?

山田 —20代はとにかく男性に負けたくない、なめられたくないという気持ちが強かったです。女性を売りしている方もたくさんいましたが、私はそれが許せなくて。同じ土俵で戦う上で、女性であることがとても不利だと思っていました。でも30代に入ってから、肩の力がスッと抜けた感じです。色々なことが受け入れられるようになったのかな? 結局私は女性でしかなく、男性らしい言葉を使ったり、虚勢を張っても性別は変えられないんだと、腑に落ちました。演劇って、男性と女性の違いがはっきり現れるものです。脚本一つとっても、男性の方が繊細に整理できて、構成もしっかりしています。一方、女性は感情過多になりがち。そういう性別の違いを無視して、しっかりした構成を追い求めようとする、自分の個性を潰してしまう気がして…。その歳の重ね方はよくないと。体の構造が違うから考えも変わるし、生き方も変わります。女性として演劇という文化に敬意を払いながら、演劇という旦那さんとうやうやって寄り添っていくかを考えることが、いい歳の積み重ね方になるのだと、今は思えるようになりました。

—女性を題材にすることが多いようですが、女性をどういう風に捉えていますか?

山田 —私は男性に勝てないと思いつつ、女性にも勝てないと思っていた時期がありました。ルーズソックスを履いて男の子と一緒に下校したり、デートするとか、いわゆる女子らしい学生時代は一切ありませんでしたから。コンプレックスや反抗心が混ぜこぜになり、可愛い生き物たる女性が苦手だったのかもしれませんが。好きな漫画のワンシーンに「あの子と私は使ってきた筋肉が違うから、受け入れるしかないよ」という言葉がありました。

脚本・演出 山田佳奈の気付き

「神になりたかった女」といつた言葉のインパクトから生まれた物語。エッジの効いた戯曲にポップで疾走感のある演出が持ち味。

—24歳の若さで劇団を旗揚げされましたが、原動力となったものは何だったのでしょうか?

山田 —10代は音楽と演劇漬けの毎日でした。当時のことを人に話すと「それは奇抜だよ」「ぶっ飛んでる」って言われます。白塗りのテクノバンドをやったり、遊ぶのは一回り以上年上の人ばかりで。とにかく感情を放出しまくっていた時期でした。奇抜なことはやり切った感があったので、21歳でレコード会社に就職しました。大好きな音楽を身近に感じ、宣伝マンとしてがむしゃらに働き、それはそれで本当に面白かったんです。ところが23歳を過ぎると、もう一度演劇ときちんと向き合いたくなくて。職場では周りに認められるようになって、私自身もステップアップしたいいな…とも思ったり、どちらの道に進もうか真剣に悩んでいたんです。当時担当していたロックバンドの方に思いを打ち明けたところ、「自分がロックだと思っ道を進めばいいよ」とひと言。その通りだ!とモヤモヤがサッと晴れ、覚悟が決まりました。人生泣いても笑っても一度きり。だったら安パイな道を選ぶのではなく、後悔しない何かをぶちかまそうと、自分の背中を押ししたんです。会社員生活に別れを告げ、24歳で念願の劇団を旗揚げしました。

—「ロジック」という劇団名には、どういう思いが込められていますか?

山田 —最初は「路地」という名前だったんです。これでは覚えてもらえないだろうと、改めることにしました。何か耳残りがよく、私らしい名前はないかな?と考えた時に、「ロジック」という言葉が浮かんだんです。ロジックは論理とか議論の筋道という意味。元々の名前だった路地とも絡むし、10代に夢中だったロックとも絡むし、これはいい、と。そしてロジックのロは「ロ(四角)」にしました。ロはステージをイメージさせ、その中に数字や漢字を入れることで意味が変わる。とても演劇的だと思いますか?言葉の意味を考えるって、とても面白い作業です。最初は「四角です」と伝えなければ分かってもえませんでした。最近では言わなくてもロと表記されています。ロなの

7月9日[土]・10日[日] 14:30 開演

脚本・演出＝山田佳奈

出演＝町田マリー、小野寺ずる、日高ゴブ美ほか

会場＝PLATアートスペース

じゃあ、先生はわたしが殺されそうになったら、代わりに殺されてくれますか?

ロジック 第11回本公演 満を持しての再演!

PLAT小劇場シリーズ

荒川、神キラークレーム

フィルターをかけることはしません。人間って、一つの言葉にたくさんの意味を込めたりするじゃないですか。ある意味すごく嘘つきな動物。それを見せないように、気付かれないように生きている。でも、私はそれを真正面から捉えるのではなく、ちょっと角度を変えて「本音はどんなのよ?」と見てあげるのが好きなんです。隠そうと思っても内面から出ちゃう一瞬の隙を描きたいなと。弱い部分でもあり、強い部分でもあるその一瞬こそが美しく、人間らしいんだと思います。生きてきた過程で、その一瞬はとても大事なものであったりします。例えば嫌いなものが食べられるようになった瞬間も、人間って案外大事な瞬間として覚えていたりして。そこに喜びだったり、生活価値を感じたりするんじゃないでしょうか? そんな一瞬があふれている日常や、誰にも気づかれない宝物みたいな瞬間を、舞台上に上げたいんです。

—今回の公演『荒川、神キラークレーム』も、そういう瞬間を描いた作品ですか?

山田 —この作品はある事件をヒントに描いています。テレビでニュースを見ていて、「神になりたかった女」という女性の存在を知りました。支離滅裂なことを言って男性たちを犯罪へと導いてしまった実在の女性なのですが、「神になりたかった」という言葉が忘れられなくて。あまりにも衝撃的でした。誰の心にもある闇というか、自分の中の別の人格を表しているような気がしたんです。私たちが神になりたくなる瞬間って、一体なんなんだろう?と自問自答したところ、子供の頃に自分へ課した訳のわからないルールや、「信号が青の状態で渡りきったらいいことがある」といったジグザグ的なことがフラッシュバックしました。それって自分で神様を作っているみたいなものだな…とか。色々なモチーフがバンバンと思いついて積み重なり、一気に書き上げた感じです。事件を直接描いたのではなく、「神になりたかった」という言葉のインパクトから、誰しも思い当たるバックグラウンドをイメージしています。登場する主人公の女性は、中学時代にやりたいことがあったにもかかわらず、やり遂げなかったことや忘

— 感激! こどもの想像力
どこへも自由に飛べる

岡田— 僕にとってこども劇は初めての試み。大きなチャレンジだし、プレッシャーもあった。実は『わかったさんのクッキー』の舞台化は僕のアイデアなんです。寺村輝夫氏の自由奔放な原作童話を読んだとき、これは舞台にしてみたい。今の自分ならできるという確信があった。神奈川県芸術劇場からこども劇の話が来たときは、二つ返事で引き受けました。

椎橋— 役者の立場からは、こどもに届ける演技って何だろう、こどもの感受性にどう受け止めてもらうのかなどと考えて、最初はプレッシャーを感じました。

岡田— はたしてこどもに届くのだろうかという不安があった。安易なこども騙しじゃダメ。児童劇とは異なる視点で、こどもの感性を刺激し育む舞台をめざしたい。でも試演を重ねると、そんな心配は吹っ飛んじゃった。こどもは想像力に満ちあふれていて、4歳児でさえ抽象的な世界を受容する能力があることがわかりました。こどもだからと過剰に意識しないで、自分の演劇そのものにチャレンジすればいいんだってスタンスが決まった。

椎橋— こどもは想像力の生き物。私たちが演じる世界はもちろん、舞台に展開される色も、形も、光も、音もいっばい感じてくれる。私たちさえ飛び越えて自由に時空を駆けまわっちゃう。

— 新境地! 演劇は魔法だ

— 皆が操られる不思議なちから

岡田— 海外公演で日本語のわからない観客でも僕の演劇を楽しんでくれる。演劇は観客の想像力次第なんです。『わかったさん』では、こどもの想像力を通して、僕はある新境地をつかんだ。僕自身の新境地。それは

僕がようやく「演劇は魔法だ」ということがわかったこと。緻密な論理や仕掛けを駆使して観客を誘導していくのではなく、つくる者、演じる者、観る者みんなが不思議な力に導かれ、いろんな世界を共有する。台本も舞台の構成・演出も、美術や音響も、みんな魔法の力に操られて成立していく。僕自身が魔法使いになって全力で創作にあたる。役者も一緒に魔法をかけまくる。まさに演劇冥利ですね。

椎橋— だから魔法をかけるにも、かけられるにも、決め手は想像力。とにかく『わかったさん』は、これまでに楽しく稽古ができました。私自身、演劇に対する考えまで変えられてしまったみたい。

岡田— どんなところを変えれた?

椎橋— こどもから返ってくる素直な反応こそ、いちばん的確な評価だって気づきました。緻密な演劇論や演技技法も役者にとっては大事ですが、素直で想像力いっばいのこどもの反応こそ原点。それを真摯に見て感じる役者でなくちゃいけないということ。

岡田— なるほどね。「魔法」ということになると、何かおもしろい経験や発見があって、おどろいたり、笑ったり、時には泣いたり、観客は知らないうちに不思議な時間と空間を生きるイメージ。実際には無いものがあったり、別のものに変ったり。そこには創り手も受け手も、こどもも大人も含めて、豊かな想像力があり、それが舞台を支えている。

— 共感! みんな一緒に円形舞台

— 観客どうしも反応しあう

岡田— 『わかったさん』で大事な要素になっているのが、円形のステージを真ん中に、それをぐるり客席が取り囲む配置です。観客は舞台の向こう側で観ている人の

表情や歓声もわかる。大人がこどもの反応を知り、こどもも大人の反応を知ることによって、みんなが一体になって魔法の世界に入っていける。

椎橋— こどもと一緒に観ることで大人にもいい効果があると思います。こどもたちの素直で自由な想像力に囲まれて、大人も自由な気持ちで劇の世界へ参加する。会場全体が自然な流れに沿って時空間を共有していく。岡田— そうなんだ。大人はこどもといっしょに観劇する楽しさを体験し、知らないうちに眠っている想像力を呼び覚ましていく。夕刻からの舞台でこどもの動員が少なかったときにもそれなりの反応はあった。でも自由で個性的なキャラクターたちと『わかったさん』を満喫するには、多くのこどもと大人と一緒に観劇するのがいちばんです。

椎橋— やはり人間は大人になっていく過程で、自分から押さえ隠してしまう感受性や想像力があるわけです。こどもと一緒に魔法にかけられ、眠った資質に気づき、それを呼び覚まして楽しめれば最高です。私たち役者の演技もそうですが、気鋭のアーティストによる舞台装置や、シンガーソングライターの劇中歌など、『わかったさん』の舞台の実験的試みも刺激的です。

— 舞台は、アートと音楽の実験場

— 金氏さん 前野さんの真剣勝負

岡田— 現代美術作家の金氏徹平さんの舞台美術は魅力です。金氏は海外でも数多く展覧会をやっていますが、身の回りにあるモノを素材にした、コラージュ的表現が多い。そんな個性が上手い具合に発揮された。2013年のあいちトリエンナーレでも舞台美術を手がけています。『わかったさん』では、立ち稽古や試演を見に来て、直ぐにいろいろなモノを送ってきた。彼のイメージで選んだ舞台装置や小道具なんです。

椎橋— たとえば岡田さんが、「クッキー材料はこれだね」で全く違うモノを手にするのとクッキー材料になっちゃう。アーティストとの想像力を受けて、次々と舞台に必要なモノに変えちゃう岡田さんのイメージレーションも凄くなって思いました。モノがカラフルなもの印象的。だから舞台もとてもカラフルです。衣装の色との絡みも素敵。

岡田— 原作を舞台化する上で、金氏さんがいればできるって確信していましたから。彼が自分の表現力を自由に発揮してくれれば、そのまま舞台として成り立ってしまう。僕の方からはほとんど指示は出してない。これも魔法の所以かも知れません。「これはこれ」じゃなく、「想像すればこれになる」という魔法。その場でいろんなものにしてしまう想像力の楽しさです。

椎橋— それから原作にも唄がありますが、シンガーソングライターの前野健太さんが、こどもも大人も一緒に共感して刺激しあえるような素敵な劇中歌にしてくれました。

岡田— 金氏さんも、前野さんも、こどもだからって意識しないで、自分の世界を真剣に追求してくれたことがよかったです。

— 豊橋公演!

— 親子で演劇の楽しさを満喫しよう

岡田— 豊橋公演のために、特に台本・演出面から変更したり新しく加えることはありません。装置など美術面などの変更はあるようですが。

見どころはこの対談で紹介したこと尽くしますが、とにかく大人もこどもといっしょに楽しんで欲しい。思い切ってこどもの感性に溶け込んで、演劇っておもしろいと実感して欲しい。こどもも人間。人間の能力、想像力の素晴らしさを満喫していただきたいです。

8/27日 [土] 15:00 開演

8/28日 [日] 11:00 開演 / 15:00 開演

8/29日 [月] 14:00 開演

原作 = 寺村輝夫著「わかったさんのクッキー」

台本・演出 = 岡田利規

美術 = 金氏徹平

劇中歌 = 前野健太

出演 = 椎橋綾那、古屋隆太、山崎ルキノ、笠木 泉、佐々木幸子

会場 = PLAT アートスペース

現代演劇の旗手・岡田利規が初めて挑む こどものための舞台

おもしろい おかしい おしばい

わかったさんのクッキー



展開で生まれ、初演から再演と繰り返すうちに確固たるものになりました。

劇を見つめる俳優の動きに関しては、基本的には俳優さんたちに任せるところからスタートしています。僕がお願いしたのは、出番のないシーンでも、その場所にいたら何を思うか。なぜ次のシーンで立つのか。その動機をきちんと持ってほしいということ。美しく感じるのはその動きにきちんと意思が働いているからだと思います。僕は何にもしていないのです。俳優の動きに対して、それいいねって。三好十郎の本が良くて、役者がいい演技を繰り返してくれて、『浮標』は出来上がったのです。

——休憩を挟んで4時間、言葉の圧倒的な力、リーディングの迫力を感じます。

長塚——台本はページで66枚くらいあります。哲司さんの台本を見るに参ります。一個一個の単語にぐりぐりぐりぐりと線が引いてあり、どうしてこれがあのようなセリフの言い回しになるのか分かりませんが、もうすごいです、真っ赤。

『浮標』の4時間というのはある種の魅力だと思っています。調子よく2時間で終わらない。2時間で終わるのが悪いとっているわけではないです。4時間という時間が、三好十郎の思いそのものだと思います。

でも、しゃかりきになって観ると疲れます。後半にも大事なシーンが待っているのです。前半は緩やかに、肩の力を抜いて観ていただいて。もちろん『浮標』が好きで、全身全霊で来るお客さんもいらっしゃいます。

三好十郎さんは非常にモダンな人で、言葉が非常に美しい。1940年に書かれたものですが、現代のセリフとしても成立しています。決して発しにくい言葉ではありません。もちろん扱うのは容易ではないですが、馴染んでくると心地いいもの感じられますよ。

——舞台中央の四角い砂浜が劇的で印象的な中に繊細さを感じます

長塚——砂と木枠のセットは初演からずっと変わっていません。この作品を演出しようと思った時から砂の上でやりたいと思っていました。堆積する記憶の粒。砂は海を喚起しますし、記憶と同じように消え去らないものとして、僕のなかでは砂と記憶は詩的につながりあっています。

物語は、久我五郎が砂の中から万葉集を取りだすオリジナルのプロログから始まります。あの時代、あの時の美緒に思いを馳せ、五郎の記憶がどんどん蘇っていく。もしかしたら俳優たちは死者を演じているのかもしれませんが。

僕がここ7、8年の間で感じているのは、演劇にものがあふれすぎて、見る側の想像力が欠如しはじめているのではないかということ。例えば、あの時代のセットを一生懸命再現すると、過去の風景に連れていかれたような、過去の遺物を見ているような感覚になるんです。それは素晴らしいことですが、もつと違う観点から戯曲を捉えていく必要があるのではないかと。勿論作品にもよります。たまたま『浮標』の場合はするするとものがなくなっていく。それは三好十郎の戯曲には現代性があり、劇世界がセットを凌駕出来る可能性を孕んでいるからだだと思います。

——演出には古典的な美意識を感じます。両サイドの俳優の動きも美しいですね。

長塚——稽古をしながら少しずつ出来上がったものです。両サイドに俳優陣を座らせるという演出も、稽古中の2人(五郎と美緒)を見つめる俳優たちの視線がだんだん面白く感じてきて、彼らの視線を活用したらいいんじゃないかと。後半の子ども役を演じるシーンも現場で生み出したものです。もしかしたら作品が能のような伝統性を呼んだのかもしれませんが。作為的じゃなく、意外な

豊かなことはありません。演劇の原点です。これは東北にも持って行きたいと思いました。震災は再演を強く後押ししました。翌年に再演なんていうことはなかなかないですから。熊本地震は本当に残念です。それはきっかけではありませんが、奇しくも今回九州での公演があります。死を前に生を問うというこの劇がどう響くでしょう。

また、今回は三好さんの出身地、佐賀公演があります。すでに三度目の主演となる田中哲司さんの中に既にあの膨大な量のセリフが二度叩き込まれていますから、スタートラインが全く違います。初演では4時間近く語り尽くすことが重く押し掛かりましたが、再演時にはすでに身体に染みついている状態なので、作品への理解も深まり、前回より高いところからスタートできることが大きいですね。今回は久我五郎の妻の美緒を原田夏希さんが演じます。美緒の設定年齢に近い30代前半の人がリアリティを持って演じたらどうなるのか。『浮標』に取り付かれた僕の新たな楽しみです。

『浮標』をやる目的の一つは、現代を生きる俳優が、古典としてではなく、現代劇としてあの時代のセリフと向き合い、立ち上げることでした。だから毎回いくつかの役は新しい俳優を招きます。若い俳優にも『浮標』という作品に出会ってほしいからです。そしてこの三度目の『浮標』は、今後の葛河思潮社にとっても大いなるスタートになると思っています。

長塚圭史が2011年に立ち上げた葛河思潮社の第1回公演が三好十郎の『浮標』。翌年に再演し、今年で3回目。作品への思い、演出の見どころなどを伺った。

——『浮標』との出会い、作品への思いを教えてください。

長塚——三好十郎さんの作品には、2005年に『胎内』を演じた時に俳優として出会っています。その後、イギリス留学中に送ってもらった資料の中に『浮標』がありました。異国にいと改めて自分が日本人であることを痛感し、同時に日本語の美しさと強さに驚かされました。すぐにこの戯曲の魅力に取り憑かれ、異国から田中哲司さんに五郎役をお願いしました。帰ったら一緒にやりませんかって。

哲司さんも『浮標』を読んでいく感動され、「ギャラはいらないからとにかくやろう」とおっしゃってくれて、それだけの思いで引き受けてもらえたのが嬉しいです。

ただ、「浮標をもう一回やろうと思うんだけど」という言葉を発するのは、ものすごい緊張感があります。本気でやるの?と何回も確認されます。久我五郎を演じるのはある意味苦行ですから。「圭史くんが好きなもの分かるし、僕も好きだけど、次の五郎を見つけてくれ」とも言われますが、僕の中ではあまりに合致しているでなかなかできない。でも、今後新たな人が五郎になると、本当の意味で76年前の戯曲が現在に残っていくのでしょうね。そうして引き継がれてゆくというのも、戯曲にとっては幸せなことですよ。

——再演3回目と震災が重なりました。

初演、2回目と3回目の違いはありますか?

長塚——『浮標』は砂の上に俳優たちが立って演じます。何もなくて、俳優がセリフを発する、演じる。観客の想像力を最大限活用するこの形が成立すれば、こんな

主人公・五郎の絶叫が響き渡る。三好十郎作の傑作戯曲『浮標』演出 長塚圭史が語る。



8月11日 [木・祝]13:00開演

作＝三好十郎

演出＝長塚圭史

出演＝田中哲司、原田夏希、佐藤直子、谷田 歩、

木下あかり、池谷のぶえ、山崎 薫、柳下 大、長塚圭史、

中別府 葵、菅原永二、深貝大輔（戯曲配役順）

会場＝PLAT 主ホール

「生とは何か」「死とは何か」

葛河思潮社

浮標

ぶい

——**シェイクスピア、そして蜷川幸雄**
翻訳家として2人の巨匠に導かれ
中島——松岡さんは蜷川幸雄演出・監修による、彩の国シェイクスピアシリーズで翻訳を担当されたのですが、蜷川さんの逝去は本当に残念です。
松岡——1997年に蜷川さんから指名をいただき、シェイクスピア戯曲全37作の個人翻訳に取り掛りました。上演がはじまったのは1998年。今回の喜劇「尺には尺を」は、32作目です。初演を5月25日に控え稽古にも熱が入っていました。蜷川さんがいつでも来られるように、稽古場を埼玉から新宿に移しましたが、残念ながら5月12日に亡くられました。見舞ったときは、皆と握手して嬉しそうでしたのに。翌13日も稽古は休まず、通し稽古では蜷川さんの椅子とテーブルを置き、そこに台本と赤鉛筆を載せて「蜷川さんはここにいる」と、みんな気持ちを一つにしました。
キャストイング、美術、ポスターのデザインまで、ほとんど蜷川さんが決めたとおりです。シェイクスピアシリーズに関わって、悲劇、喜劇、史劇、ロマンス劇などシェイクスピアの全ジャンルに取り組み、翻訳家として本当に幸せだと思います。
——**喜劇の中を悲劇が突っ走る**
『ロミオとジュリエット』の特異性
中島——『ロミオとジュリエット』はよく知られた恋愛悲劇ですが、劇として、どうとらえられていますか。
松岡——ご存じのように、舞台はイタリアのヴェローナ。モンタギュー家の息子ロミオは、敵対するキャピュレット家の舞踏会に忍びこみ一人娘ジュリエットと恋に落ちる。二人は結ばれますが、すぐに破局をむかえる話です。シェイクスピア劇に限り喜劇は結婚で終わり、悲劇は結婚から始まります。でも『ロミオとジュリエット』は喜劇として始まり、結婚をはさんで悲劇で終わるという、悲喜劇が融合したような、独自の構成を持っています。
また話の展開の速さも類がないほどで、原話では数ヶ月の物語をたった5日に凝縮してあります。

ジュリエットは、14歳前という若さ。ロミオは片思いの恋人がいるのに、ジュリエットに一目惚れ。有名なバルコニーでの告白を経て、翌日の月曜には密かに結婚し、その日の午後にロミオはジュリエットの従兄を殺してしまい、追放を宣告される。二人は初夜を過ごしたものの、すぐ別れねばならない。ジュリエットは別の結婚話を父に決められ、その夜、42時間仮死状態になる毒薬を飲み、翌水曜日の朝に「死んで」発見されます。思わぬ行き違いからその日の晩に二人は死を迎える。わずか4〜5日の間に若者四人が死ぬ。悲劇の重苦しさを感じさせないスピーディな展開は、まるで二人の息遣いみたいですよ。

中島——時代や地域社会、家同士の対立で負わされる障害を超えて結ばれるまでのエネルギーは喜劇のように軽快なリズム感です。生と死の対立概念や、老いて行く者と若者の世代間対立も、悲喜劇両方にまたがります。生と死が背中合わせにある中での愛のかたちですが、ロミオの性急さと一途な情念から噴出する若さのエネルギーもドラマの軸となっています。

松岡——1998年と2005年の蜷川さん演出の『ロミオとジュリエット』では、見事に若さを引き出していました。とても60歳を超えた人の演出とは思えないみずみずしきで、レモンをギュッと握るとそこからほとぼり出るレモン汁のような鮮烈さです。

——**黙読は知識 音読は体験となる**
稽古場で言葉の力を知る

中島——戯曲は言葉の芸術です。戯曲の言葉についてはどんな考えをおもちですか。

松岡——シェイクスピアの言葉は、「意味」「音」「イメージ」で成り立っています。特に戯曲では、対話であれ、モノローグであれ、声で発するわけですから、戯曲は音読がおすすです。黙読は知識となり、音読は体験となるというのが私の持論です。シェイクスピアには、実に巧みな言葉の仕掛けがあり、言葉遊びもいろいろ出てきます。つねに音声にして、言葉の生命力を持った訳



INTERVIEW :3

「シェイクスピア講座」

第一回『ロミオとジュリエットとシェイクスピア音楽』

シェイクスピア戯曲全訳に取り組み。

翻訳家 松岡和子に聞く。

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT シニアプロデューサー

をと努力しています。

中島——松岡さんはつねに稽古場に出かけて仕事をされるそうですね。

松岡——稽古場は発見の場です。俳優が毎日の稽古で役を仕上げていくように、戯曲の翻訳も稽古に立ち会うことで完成していきます。台本も、稽古場で役者や演出家の意見を聞きながら、随時直しを入れています。俳優さんとの会話で、なかなか見つからなかったロミオとジュリエットの翻訳にもヒントをもらいました。

——**バレエに、映画に、オペラ、ミュージカル**
多彩な分野の『ロミオとジュリエット』

中島——『ロミオとジュリエット』は、対立に翻弄され、死へ至る恋人同士という、普遍性のある物語なので多くの分野で応用展開されてきました。

松岡——英国ロイヤル・バレエ団の『ロミオとジュリエット』は有名です。またこの劇世界を現代のニューヨークに移したミュージカル『ウェスト・サイド物語』は映画でも大ヒットし、フランコ・ゼフィレリが舞台と映画で演出・監督した『ロミオとジュリエット』の影響力は甚大です。映画主演のオリビア・ハッセーは初々しくて素敵でしたね。その後バズ・ラーマン監督、レオナルド・ディカプリオとクレア・デーンズ主演の映画もヒットしました。今回のカンパニーデラシネラの『ロミオとジュリエット』は、とても実験的で遊び心あふれる舞台。パフォーマーの身体表現や美術デザイナーの道具仕立てに言葉をからませる演出が魅力です。

「シェイクスピア講座」は、8月、9月にも開催します。詳細はinformation (13P)をご覧ください。

松岡和子[まつおか・かずこ]／1942(昭和17)年、旧満州新京(長春)生れ。東京女子大学英文科卒業。東京大学大学院修士課程修了。著書に『すべての季節のシェイクスピア』『繪本 シェイクスピア劇場』(安野光雅・画)『快読シェイクスピア』(河合隼雄との共著)『もの』で読む入門シェイクスピア』『深読みシェイクスピア』など、1996(平成8)年からシェイクスピア戯曲の全訳に取り組み、その新訳を用いた蜷川幸雄演出による舞台上演が注目されている。ちくま文庫による既刊は『ハムレット』など32本。

【公演情報】

PLAT小劇場シリーズ

カンパニーデラシネラ

『ロミオとジュリエット』

世界中で愛される名作恋愛悲劇を、言葉を越えて身体と不思議な美術で見せる70分。

6月11日(土)、12日(日)14:30開演

原作＝ウィリアム・シェイクスピア

演出＝小野寺修二

美術＝石黒 猛

出演＝斉藤 悠、崎山莉奈、王下貴司、

大庭裕介、藤田桃子、小野寺修二

会場＝PLATアートスペース

豪華俳優陣による襲名披露公演。
 プラット茶屋の開店や特製弁当の販売など、
 劇場が丸一日歌舞伎小屋に変身!

中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露公演への意気込みを、松本幸四郎と、中村雀右衛門が語る。

幸四郎 — これまでも巡業は何度も回らせていただきましたが、今回は五代目中村雀右衛門襲名披露ということで、感慨無量です。成功裏に終わりますよう、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

雀右衛門 — 今回は大きな節目である襲名披露として、さらに父とたびたび共演された幸四郎のお兄様、梅玉のお兄様の御胸を借りて、父がゆかりにしていた『仮名手本忠臣蔵 七段目 祇園一力茶屋の場』のおかる役で全国を回る、こんな幸せなことはございません。精いっぱい舞台を勤めて、お越しいただくお客様に喜んでいただけるように頑張っていきたいと思います。

— 先代、四世中村雀右衛門について

幸四郎 — 京屋(四世中村雀右衛門)のおじさんは、若い頃には映画スターでしたし、雀右衛門になられてからは、古風ないい女方さんでした。今回上演する『仮名手本忠臣蔵 七段目 祇園一力茶屋の場』でも一緒にさせていただいています。色々とお相手をしてくださって、いい勉強をさせていただきました。

雀右衛門 — 父の教えは、「役の性根を理解して気持ちを強く持つこと、そしてとにかく綺麗でないといけない」でした。この二つが舞台を勤めるうえで私が大切にしていることです。

— 「仮名手本忠臣蔵 七段目 祇園一力茶屋の場」について

幸四郎 — 私の演じる大星由良之助は、世論をなびかせるためにわざと遊興にふけるという仮の姿で登場し、最後に本心を明かす、という役どころです。七段目はとにかく見どころがたくさん芝居です。どうぞ楽しみにしてください。

雀右衛門 — おかるは遊女であり、勘平の女房でもあり、元は腰元と、複雑な役柄ではありますが、『七段目』では、

色気もあって誠実でと、女方として色々なものを表現しないといけません。女方が重きをなす大きな舞台ですから、そこで父の姿を再現できるよう、自分の体を通してお見せしたいです。勘平が死んだと聞いて苦しむくだりでの驚くところや間の取り方などを、父が細かく教えてくれた思い出もご紹介します。

由良之助、平右衛門との関わりの中で表現する女性の心をお客様に喜んでいただければ嬉しく思います。

— 全国巡業について

幸四郎 — 巡業では様々な劇場を回ります。初めて歌舞伎の公演を行う劇場もありますし、初めて歌舞伎をご覧になるお客様もいらっしゃる。それは大変光栄に思うと同時に責任もご紹介します。劇場がどのような形であれ、そこにいらっしゃったお客様に感動していただくことが大切です。歌舞伎だからどうこう、ではなく、面白い芝居を心に感じていただくことが大事。歌舞伎というより、「いいお芝居」をお見せしたいですね。そして、また見てみたいなお声が聞こえる舞台にしたいと思います。

雀右衛門 — 今回の公演は、雀右衛門という名前で回らせていただく大きな責任がご紹介します。お客様にも注目していただけるので、より頑張る、もつと素晴らしい舞台が勤められるように頑張ります。

登場人物の心情をお客様と共有させていただいて、物語の筋を追うというより、登場人物の心を感じ取っていただければ、わかりやすいと思います。

五代目中村雀右衛門[なむら・じゃくえもん] / 昭和30年11月20日生まれ。四代目中村雀右衛門次男。36年2月歌舞伎座「一口剣」の村の子明石で太谷広松を名乗り初舞台。39年9月歌舞伎座「妹背山婦女庭訓(いもせやまおんなていきん)」の御半下おひろで七代目中村芝雀を襲名。平成28年3月「鎌倉三代記」時姫と「金閣寺」雪姫で五代目中村雀右衛門襲名。

松本幸四郎[まつもと・こうしろう] / 昭和17年8月19日生まれ。初代松本白鸚の長男。21年5月東京劇場「助六」の外郎売俵で二代目松本金太郎を名乗り初舞台。24年9月歌舞伎座「逆櫓」ほかで六代目市川染五郎を襲名。56年10・11月歌舞伎座「勧進帳」の弁慶ほかで九代目松本幸四郎を襲名。

松竹大歌舞伎
 中村芝雀改め
 五代目
 中村雀右衛門
 襲名披露



9月3日[土] 12:30開演/17:30開演
 演目
 「當年祝春駒」
 「五代目中村雀右衛門襲名披露口上」
 「仮名手本忠臣蔵 七段目 祇園一力茶屋の場」
 出演
 松本幸四郎
 芝雀改め五代目中村雀右衛門
 中村梅玉ほか
 会場=PLAT主ホール

INTERVIEW:1

劇団口字ツク
 脚本・演出
 山田佳奈の気付き

3頁より続く

れ去りたいことなど、記憶に蓋をして大人になりました。ある出来事をきっかけに、蓋をしていた記憶と向き合うこととなり、葛藤しながら前へ進むというストーリーです。言葉で言ってしまうと簡単ですが、葛藤している先にも次の展開が必ず待っていて、素晴らしいかもしれないし、喜ばしくない道のりかもしれません。でも、絶対に歩まなくてはならない。そして振り返れば歩んできた道がある。もがきながら葛藤する瞬間や、人間に突きつけられた課題を描きたかったのかもしれませんが。何が待っていても歩みを進める。ある意味ポジティブな内容だと思います。

— 今回再演となる『荒川、神キラーチューン』。初演と異なる試みはありますか？

山田 — 実はまだ稽古を始めていないので、決まっています。ただ、再演するからには、過去の自分に敬意を表して、台本をお借りする気持ちでやりたいと思っています。この作品を書いたのが29歳で、現在31歳。たかが2年前ですけど、そのときにしか書けない言葉って、たくさんあると思うんです。いくつもの葛藤を繰り返して生まれた言葉たちですから、多少のアレンジはあっても、過去の自分が怒るようなことはしません。その時感じた意義や理由を無視してはいけなくて、一人の演出家として肝に銘じています。実はまだ台本を開いていません。あえて読まないようにしています。中途半端に読んでしまうと、自分の中で何が衝撃的だったのかわからなくなりそうで。当時の自分と向き合えるタイミングが訪れたときに読んで、ビックリしたいんです。そして私が受けた衝撃をそのまま伝えたいので、幕開きの瞬間はかなり意識して演出しています。物語が始まる第一声はどう発せられるか、見ていただきたいですね。衝撃がないと人間はすぐに忘れてしまうので、簡単には幕を開けたくないと思っています。

— 今回の公演に際しての意気込みと豊橋の人たちにメッセージをお願いします。

山田 — プラットは市民と創るスケッチ群像劇『話しグルマ』以来で1年ぶり。2年もの月日をかけて臨んだプロジェクトでしたから、思い入れが強かったですし、記憶にもしっかり残っています。豊橋はターニングポイントとなった30歳の誕生日を迎えた土地でもあるので、第二の故郷みたいな感覚ですね。本音を言うと、まさか自分の劇団の作品が、大好きな土地で公演できるとは思っていませんでした。受け入れてもらえるかドキドキです。『荒川、神キラーチューン』は、豊橋の方たちが今まで見たことのないタイプの演劇だと思います。男性の脚本家が描く演劇は、構成がしっかりしているというお話をしましたが、私はやっぱり人に対して吠えているような、感情過多で衝撃的なものを作りたいみたいです。自分をここまで突き動かし、描かずにはいられなくなってしまったものを、舞台を通じて感じて欲しいな、と。人間が作るものって、必ず自我が滲み出るもです。音楽を含め、私の中から滲み出てしまった瞬間を共有できたら嬉しいですね。



劇団口字ツク
 山田佳奈演劇ワークショップ
 自分の身体や中にある
 言葉に気付く

作家・演出家の山田佳奈さんによるワークショップが4/9(土)・10(日)に行われました。演劇において一番大事なことは「気付くこと」と山田さん。五感を研ぎ澄ませると、生活のあらゆる場面で気付きがあり、気付きが行動を起こさせ、セリフへとつながるのだと言います。今回参加したのは15歳から72歳までの男女46人。演劇を志す人だけでなく、会社員や主婦など、様々な面々が集いました。まずはフローチャートを使った座学から。身体・心・生活と演劇の関係を説き、「心の中のセリフ」が生まれる仕組みを学びます。続いてウォーミングアップ的な「昆布と波」。二人一組になって昆布役と波役に分かれ、波によって身体のあちこちを揺さぶられた昆布役は、昆布になりきって揺らめくのですが、これがなかなか難しく、皆さん苦戦していました。さらに「主導権を握られるゲーム」で他人に動きを委ねる感覚を学び、いよいよセリフを発するワークショップへ。二人一組が設定された役柄になりきり、脈略のないセリフを放つ「意味のないセリフ」で寸劇を体験。仕上げは喫茶店を舞台にした「心の中のセリフ」で、自ら役柄を設定し、肩を叩かれたのを合図に心の声を発するという試みでした。頭では理解できても、身体やセリフへと繋がらない葛藤を覚えた方、ただただ楽しんでいただけの方など、反応もそれぞれ。非日常と捉えがちな演劇を、生活の一部として身近に感じられる一連のワークショップは、見るだけでも楽しく、あつという間の4時間でした。

PLAT 主催公演情報

劇団四季「王子とこじき」



撮影・下坂敦俊

劇団チョコレートケーキ「治天ノ君」



木ノ下歌舞伎「勸進帳」



撮影・東直子

小曽根真&ゴンサロ・ルバルカバ ピアノデュオ



ゴンサロ・ルバルカバ



小曽根真

コンドルズ「コンドルズの遊育計画」



スーパー・エクセントリック・シアター 新作公演



三宅裕司

小倉久寛

6/25 [土]・6/26 [日] 13:00 開演
マグベス

●原作=W.シェイクスピア●翻訳=河合祥一郎●構成・演出=野村萬斎●出演=野村萬斎、鈴木砂羽、小林桂太、高田恵篤、福士恵二●会場=PLAT主ホール●前売予定枚数終了:当日券の販売に関してはお問い合わせください。

7/9 [土]・7/10 [日] 14:30 開演
PLAT小劇場シリーズ

口字ッグ「荒川、神キラーチューン」 好評販売中
●脚本・演出=山田佳奈●出演=町田マリー、小野寺ずる、日高ボブ美ほか●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,600円ほか

8/11 [木・祝] 13:00 開演
葛河思潮社
「浮標」がよい

●作=三好十郎●演出=長塚圭史●出演=田中哲司、原田夏希、長塚圭史ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席6,000円/A席5,000円/B席3,000円ほか

8/17 [水]・8/18 [木] 15:00 開演
あいちトリエンナーレ2016 パフォーミングアーツ
ダニ・リマ(ブラジル)
「Little collection of everything」

リオデジャネイロを拠点に活動するダンサー、振付家のダニ・リマが主宰するブラジルのカンパニーの初来日公演。色とりどりのカラフルな物で遊びながら何気ない仕草や言葉を再発見する、ことも楽しめるダンスパフォーマンスです。●会員先行=5月21日(土)●一般発売=6月25日(土)●会場=PLATアートスペース●料金=[日時指定・全席自由]一般3,000円/学生(25歳以下)1,500円/中学生以下500円※4歳以上有料、3歳以下膝上鑑賞無料★同時購入特典★本公演一般チケットと「わかつたさんのクッキー」のおとなチケットのセット券をご購入の方には、「わかつたさんのクッキー」公演当日にプチクッキーをプレゼント

8/27 [土] 15:00 開演・8/28 [日] 11:00 開演/15:00 開演

8/29 [月] 14:00 開演
おいしいおかしいおしばい
「わかつたさんのクッキー」 好評販売中

●原作=寺村輝夫(「わかつたさんのクッキー」/あかぬ書房より)●台本・演出=岡田利規●出演=椎橋綾那、古屋隆太、山崎ルキノ、笠木泉、佐々木幸子●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]おとな3,000円、U24(24歳以下)1,500円、子ども(高校生以下)500円※4歳より入場可★同時購入特典★本公演おとなチケットとダニ・リマ「Little collection of everything」の一般チケットのセット券をご購入の方には、本公演当日にプチクッキーをプレゼント

9/3 [土] 12:30 開演/17:30 開演
平成二十八年度(公社)全国公立文化施設協会 主催 **西コース**
松竹大歌舞伎
中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露

●会員先行=6月4日(土)●一般発売=6月19日(日)※発売初日は、一申込につき一公演4枚まで。●出演=松本幸四郎、芝雀改め五代目中村雀右衛門、中村梅玉ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席10,000円/A席7,000円/B席5,000円ほか

あいちトリエンナーレ2016 特別連携事業
「まちとつくる演劇」

PLATや周辺地域を巡りながら楽しめる新感覚の参加型演劇です。●会場=PLAT、豊橋市内

9/10 [土]・9/11 [日] 12:00 開演/15:00 開演
スイッチ総研「穂の国とよはし芸術劇場スイッチ」

9/22 [木・祝]・9/24 [土]・9/25 [日] 14:30 開演
ままごと「交響曲『とよはし』(合唱付)」
*スイッチ総研、ままごととも一般から出演者を募集します。詳細はお問い合わせ下さい。

9/25 [日] 16:00 開演
劇団四季ファミリーミュージカル
「王子とこじき」

好評販売中

「トム・ソーヤーの冒険」などで知られるアメリカの文豪マーク・トウェインが1881年に書いた同名小説をミュージカル化。本当の幸福とは何かを問いかける作品です。●会場=PLAT主ホール●料金=S席一般5,000円(小学生以下3,000円)、A席一般3,000円(小学生以下2,000円)

10/1 [土] 19:00 開演・10/2 [日] 14:30 開演
PLAT小劇場シリーズ
劇団チョコレートケーキ
「治天ノ君」

第21回読売演劇大賞選考委員特別賞を受賞した作品の再演。大正天皇の皇后である九条節子を主人公に据え、妻の視点から語られる、夫「大正天皇」の生涯を描きます。●会員先行=7月16日(土)●一般発売=7月30日(土)●脚本=古川健●演出=日澤雄介●出演=松本紀保、西尾友樹、岡本篤ほか●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか※木ノ下歌舞伎「勸進帳」とのセット券あり(一般5,000円・枚数限定)

8/27 [土] 11:00 ~ 12:30(終了予定)

【関連企画】
金氏徹平 ワークショップ「白い彫刻を作ろう！」

●講師=金氏徹平●会場=PLAT創造活動室B●対象=小学生●料金=「わかつたさんのクッキー」チケットをお持ちの方は無料。チケットが無い場合は500円●定員=15名(先着順。定員に達し次第終了)●申込=プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)

チケットの購入・お問合せ
プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00~19:00]
●オンラインhttp://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]

U24・高校生以下割引ご案内 ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

●料金=U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
●購入方法=各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
●その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

10/4 [火] 19:00 開演
小曽根真&ゴンサロ・ルバルカバ ピアノデュオ

「天才」という言葉はこういう音楽家のためにある。小曽根真がそう語るのにはキューバ、ハバナ出身のゴンサロ・ルバルカバ。超絶技巧での演奏、そして誰も今まで経験したことのない全く新しい世界観を創造している彼のコミュニケーションを本当に楽しみにしている小曽根。ふたりの出会いから生まれる音楽は、私たちの至福の時間となる。●会員先行=6月18日(土)●一般発売=7月3日(日)●出演=小曽根真、ゴンサロ・ルバルカバ●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席6,600円(ユース3,300円)/A席5,000円(ユース2,500円)

10/22 [土] 19:00 開演・10/23 [日] 14:30 開演
PLAT小劇場シリーズ
木ノ下歌舞伎「勸進帳」

歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する木ノ下歌舞伎による「勸進帳」を、2014年PLATアートスペースにて「ハムレット」を上演した杉原邦生演出により上演いたします。●会員先行=7月16日(土)●一般発売=7月30日(土)●監修・補綴=木ノ下裕一●演出・美術=杉原邦生●出演=リー 5世、坂口涼太郎、高山のえみほか●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか※劇団チョコレートケーキ「治天ノ君」とのセット券あり(一般5,000円・枚数限定)

7/29 [金] 19:00-20:30
【関連企画】

木ノ下裕一 トーク&レクチャー 申込受付中
●講師=木ノ下裕一●会場=PLAT創造活動室A●参加費=無料●対象=高校生以上。●定員=50名程度(先着順。定員に達し次第終了)●申込=プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)

11/11 [金] 19:00 開演・11/12 [土] 13:00 開演
スーパー・エクセントリック・シアター 新作公演

三宅裕司、小倉久寛を中心に結成し、今年創立37年を迎える劇団SETがPLAT初登場!アクション、ダンス、歌、笑いをふんだんに取り入れた「ミュージカル・アクション・コメディー」、誰もが楽しめるサービス精神旺盛なステージです。●会員先行=8月6日(土)●一般発売=8月21日(日)※発売初日は、一申込につき一公演4枚まで。●作=福田哲平●演出=三宅裕司●出演=三宅裕司、小倉久寛ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席7,000円/A席6,000円/B席4,000円ほか

11/19 [土] 11:00 開演/15:00 開演
国民文化祭あいち2016市町村事業
プラットで親子わくわく“からだ遊び”!
「コンドルズの遊育計画」

NHKエデュケーショナルが提唱する「遊育(あそびく)」と男性のみ学ラン姿のダンス集団・コンドルズのコラボ企画。0歳からおとなまで楽しめる。観客参加型イベント。「からだ遊び」で子どもたちの心と体、コミュニケーション能力を育みます。●会員先行=8月20日(土)●一般発売

=9月10日(土)●構成・映像・振付=近藤良平●出演=コンドルズ●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]おとな2,800円/子ども(高校生以下)800円※3歳以上有料、3歳未満は膝上鑑賞無料★ボランティアスタッフ募集!★詳しくは9月以降発表予定

東三河の若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート 好評販売中

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で60分の贅沢なひとときをお過ごしください。●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・整理番号付]各回500円
6/27 [月] 19:00 開演 ピアノ連弾ユニットKIWA(井垣壮太・高岡準)
「2台ピアノ・ダンスセッション」
8/8 [月] 11:30 開演 宮脇泉月(ヴァイオリン)「ヴァイオリンで描く魅惑の世界」
8/22 [月] 11:30 開演 宮部まどか(ピアノ)[La Siestal ~ピアノで感じるスペイン情緒趣味~]

シェイクスピア没後400年記念
シェイクスピア講座 申込受付中

日本の第一線で活躍する演劇人が、シェイクスピアの代表作について語るレクチャーです。●会場=PLATアートスペース●参加料=講座1回につき500円●申込=プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)
8/4 [木] 18:30-20:00 「ハムレット」
講師=谷賢一(作家・演出家・翻訳家)
9/2 [金] 18:30-20:00 「十二夜」~シェイクスピアと歌舞伎~
講師=松井今朝子(作家)、松岡和子(翻訳家・演劇評論家)

PLAT小劇場シリーズ KAKUTA「愚図(仮)」関連企画
KAKUTA 桑原裕子

演劇ワークショップ 申込受付中
7/13[水]・7/14[木]19:00~21:00
7/18[月・祝]10:00~17:00(全3回通し)
●講師=桑原裕子●会場=PLATアートスペース●対象=高校生以上で全日程に参加可能な方。演劇経験不問。●定員=20名(応募者多数の場合は選考)●締切=6月26日(日)17:00必着●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込

平田満&井上加奈子
表現・発見・体験ワークショップ 申込受付中

8/20[土]・8/21[日]13:00~17:00(2日間通し)
●講師=平田満、井上加奈子ほか●会場=PLATアートスペース●対象=高校生以上で2日間とも参加可能な方。演劇経験不問。●定員=20名(応募者多数の場合は選考)●締切=7月20日(水)17:00必着●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込



「松竹大歌舞伎」

芸術文化アドバイザー

平田 満の
ちよこつとエッセイ



第17回「ほのぼの」

『ほのぼの』という漫画があります。ほのぼのというラッコと動物たちの日常?を描くほのぼのとした4コマ漫画ですが、独特の間とユーモアと哲学的なセリフが絶妙で、実は私も隠れファンです。「そうだ今日は風となかよくしてみよう」

「たいへんなことはいつも起きていて、ボクたちがそれを知らないだけなのだろう」

「ボクらはみりばかりしている、どうなりたいんだろう、どうなりたくないんだろう」

「なにかしてる時ふっとさびしくなるのさ」

などの詩的で含蓄のある言葉がふっと出てきたりします。

その『ほのぼの』のアニメ版で、ある場面がカットされていると聞きました。暴力を連想させるといふことらしいのですが、ちょっと残念です。とても面白い、ナンセンスな場面だったからです。

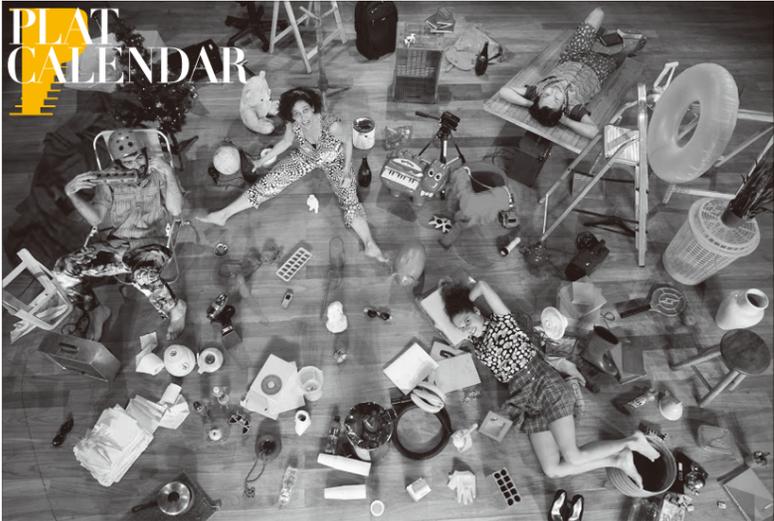
特定の人を攻撃したり、蔑視することはもちろんいけないことです。でも世の中には悪意も矛盾も不平等もあります。漫画という表現だからこそ、ちよつとした毒や暴力にもユーモアやナンセンスなおかしみがあるのになあ、と思います。

今春話題になった「春画展」でも似たようなことを感じました。女性や夫婦連れも大勢いましたが、眉をひそめたり嫌悪感をあらわにする人はいなかったようでした。むしろ笑い声さえ聞こえてきました。考えたら「春画展」を鑑賞する!ということがそもそもユーモラスな行為かもしれません。

世の中には男女の営みがあり、わいせつにも感じられれば、ほほえましくも美しくも感じられる。これは正常なことではないでしょうか。「きれいは汚い、汚いはきれい」というマクベスの魔女の言葉ではありませんが、人間なんて矛盾だらけ、表裏一体が真実だと思います。

表現の自由と規制は微妙で悩ましい問題です。一人ひとりの対応力、判断力、包容力が大事なのではないのでしょうか。

ただ表現にあるのは、驚きに満ちた、心を動かされる表現と、退屈でつまらない表現(!)、それだけかもしれませんね…



ダニ・リマ「Little collection of everything」撮影・Renato Mangolin

- JULY**
- 2 [土] 突撃おたま苦楽部 前田憲男コンサート●PLATアールスペース
 - 5 [火]—7 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第255回例会 文学座「セールスマンの死」●PLAT主ホール
 - 8 [金] 志多ら 豊橋公演～いのちの力●PLAT主ホール
 - 9 [土]—10 [日] PLAT小劇場シリーズ 口字ック「荒川、神キラーチューン」●PLATアールスペース
 - 13 [水] がましん 経済講演会●PLAT主ホール
 - 18 [月・祝] 第6回 YMバレー発表会●PLAT主ホール
 - 21 [木] メディプラスガーデンフィットネススタジオ開設10周年 第34回 西田メディカルクリニック講演●PLATアールスペース
 - 23 [土] 第39回 さなぎ会発表会●PLATアールスペース
 - 24 [日] 第5回 城バレースタジオ発表会●PLAT主ホール
 - 25 [月] ドライバーの運転マナー向上セミナー●PLATアールスペース
 - 26 [火] 尾本安代 サマーワークショップ●PLATアールスペース
 - 26 [火]—29 [金] 第69回 中部日本高等学校演劇大会 愛知県東三河地区の部 ●PLAT主ホール

- AUGUST**
- 1 [月] 豊橋市制施行110周年記念式典●PLAT主ホール
 - 3 [水] 第15回 小中学生による芸能フェスティバル●PLAT主ホール
 - 4 [木] シェイクスピア没後400年記念 シェイクスピア講座「ハムレット」●PLATアールスペース
 - 5 [金] ローズアンサンブルがおくる 音楽のがっこう●PLATアールスペース
 - 5 [金] ローズアンサンブルがおくる 気軽にクラシック●PLATアールスペース
 - 8 [月] プラットワンコインコンサート 宮脇泉月「ヴァイオリンで描く魅惑の世界」●PLATアールスペース
 - 9 [火] 坂本陽香・濱中敦司 パークッションデュオコンサート●PLATアールスペース
 - 11 [木・祝] 葛河思潮社「浮標」●PLAT主ホール
 - 17 [水]—18 [木] あいちトリエンナーレ2016パフォーミングアーツ ダニ・リマ「Little collection of everything」●PLATアールスペース
 - 22 [月] プラットワンコインコンサート 宮部まどか「¡La Siesta! ～ピアノで感じるスペイン情緒趣味～」●PLATアールスペース
 - 23 [火] マリンバコンサート「マリンバで楽しもう」●PLATアールスペース
 - 27 [土] 第18回 佐々木バレースタジオ発表会●PLAT主ホール
 - 27 [土]—29 [月] おいしいおかしなおしばい「わかったさんのクッキー」●PLATアールスペース
 - 28 [日] 三河市民オペラ ガラコンサート●PLAT主ホール
 - 31 [水] CBDC PARTY 2016●PLATアールスペース

SAN-EN 知識製造業
http://www.san-en.co.jp

有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所 / 豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所 / 浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

Gallery 48 呉服町48 TEL.54-4848

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 電話 竹内産婦人科

内科・消化器科・循環器科・眼科・整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科
医療法人 羔羊会 弥生病院
日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子(東高2回生)
〒441-8106 豊橋市弥生町宇東豊和96 電話(大代)48-2211

YMバレーカンパニー
2118610

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

医療法人慈豊会
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅
東田町井原39の7(市赤赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

株式会社 谷山建築設計事務所
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科
伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 **轟きく宗**
豊橋市新本町40 電話52-5473番

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御菓子司 **若松園** 創業江戸

調理と製業のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

気まぐれコンサート
事務局 / 0532-62-9259 (小川恵司)

安心・安全な地下駐車場
パ・ガ500
ソワの親子の看板が目印
プラット主ホール・アールスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
塩之谷整形外科
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香
豊橋市植田町閑取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 **舟ちくわ**

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL.46-3281 FAX.46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店 **高誠堂**
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の豊川堂
本店54-6688番 / カルミア店55-2810番 / アビタ店54-6351番

練物専家 **たけなは**
ココラフロント ホテルアークリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

生活にファインクオリティ
sala

広告募集

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く10:00—19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

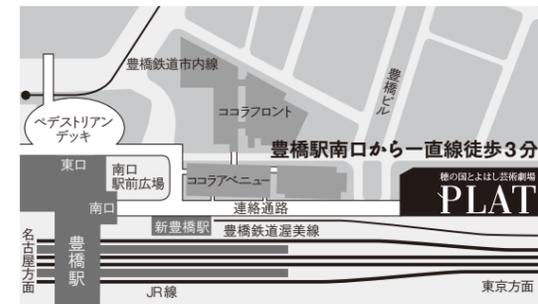


プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
 - 2 インターネットでチケット予約ができます。
 - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
料金
U24[24歳以下対象]: 公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下: 一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00—22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT